

上田市地域づくり人材育成講座 2019 第 5 回

『『防災』から地域づくりをどう進めるか』 報告



グループワークにて地域づくりの課題と方向性について意見交換する様子

【1】 講座概要

< 概要 >

上田市地域づくり人材育成講座 2019

第 5 回 『『防災』から地域づくりをどう進めるか』

主催：上田市／共催：長野大学

日時：12/13（金） 14:00~16:00

会場：長野大学 4-104 教室

<タイムテーブル>

14:00~ 本日の講座のねらい

前川道博（長野大学企業情報学部教授）

14:05~ 対談：地域づくりで大切な事 司会：前川

丸田藤子 21世紀ボランティア研究センター代表

堀内房子 長野市赤十字奉仕団副委員長

14:30~ グループワーク：「防災」から地域づくりをどう進めるか

15:30~ 受講者各自の抱負：地域づくりの課題と方向性 まとめ

15:55 閉講式

16:00 終了

【2】講座報告

講座では、長野 1998 冬季オリンピックのボランティアでコーディネーターとして活躍し、今なお数々のボランティアに進んで携わる丸田藤子さんと、それを共に支えた長野市赤十字奉仕副委員長の堀内房子さんにお話を伺った。



21 世紀ボランティア研究センター代表 丸田藤子先生の講座

「年賀状には朝起きてやることがある人生にしたい」ということを大切にしているという話で始まった丸田藤子さんのお話では、オリンピックで3万2千人をどうコーディネートしていたかについて語って頂いた。「コーディネートはこーでねーといけねえ。なんてことはない」と場を和ます金言を皮切りに、柔軟な発想の重要性を訴えた。

ボランティアの考え方で印象に残った話がある。ボランティアは、フランス語のボルケーノ（熱量）と同じで、熱が高くないと人に移らなく活火山と同じで人に言われてやるのではなく、自分が熱を燃やしてやるのがとても大切で「なぜ」という意識を持って取り組むことが大事という話だった。「ボランティア活動とは相手の立場になって物事を考える事も大切」という考え方についても語って頂いた。

その次に、会場に女性が少ない事に触れ「女性を育てる住民自治」を目指してほしいという想いを訴えた。男女が協働し、お互いの立場を理解することで新しいものが生まれるということが分かった。

また、踏み出してみないと良し悪しがわからないというボランティア活動において、一番大切な事は「一步踏み出す勇気」だという話も頂いた。「どうぞ怖がらないでいろいろな経験をして、朝やることのある人生を歩んでいこうではありませんか！」という一喝で話は締めくくられ、次の登壇者である堀内房子さんへとマイクを繋いだ。



長野市赤十字奉仕団副委員長 堀内房子さんの講座

堀内房子さんからは「私は男の人には負けないように意識して頑張ってきた」「ボランティア活動を初めて20と数年、80の半ばになりますがそれでも動ける！人間朝起きて何かやることがあるという事は、力を貰える」という話から始まり、今年の台風19号にまつわる活動紹介がなされた。

堀内さんは、「泥沼の中でご飯を炊く余裕がない子供だけにでもご飯を」という声を聞き付け、長野市赤十字奉仕委員会として活動をした。そこで感じた「組織があったからこそ、このような活動ができた、人の集まる力には感謝したい」という思いを訴えた。

パネルディスカッション中、前川教授からは、ボランティアとは「ボランティアエ＝はい喜んで」という表現があり、社会奉仕という概念ではなく何よりも自分の喜びの為にする、それが他人の喜びにつながるのではないかという話があった。

ボランティアにまつわる話が進む中、会場に質問を集ったところ「丸田さんや堀内さんがボランティアをしていく上で自治体にはどのような事をしてほしいか」という質問があった。丸田さんは「皆さん、肩に力を入れすぎです！肩の力を抜いていきましょう。そして立ち上がるべきものが見えて来る」と返答し、特殊詐欺に騙されている人を助けるための「ちょっとまってちゃん実行委員会」を立ち上げたというエピソードを紹介した。



講座を終えて、感想を発表する参加者の方々の様子

お話が終わると、丸田藤子さんと堀内房子さんを加えグループワークを行い、私は丸田藤子さんと同じテーブルとなった。そこで印象に残ったのは「パッション、ミッション、ディスカッション」という要素が非常に重要であり、これをしっかり意識してボランティアをしていけば何事も上手くいくという話であった。

最後の意見交換では、「今回の事を教訓としてやっていきたい」「意識をそろえることは難しいが参考にしていきたい」と前向きな意見が多かった。これを機に、自分の地域が若者と自治体と共に、よりよくなっていく方法について考えを深めていきたいと思った。

(報告者 仲間 光輝 長野大学前川ゼミ4年生)